

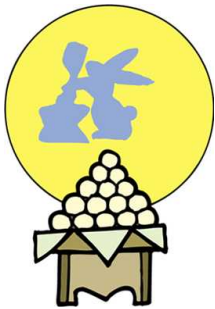
令和3年9月17日

八戸市立新井田小学校  
同 父母と教師の会



啐啄 NO.747

☎ 25-5125  
☎ 25-3150



## 試練の9月を乗り越えよう

校長 成田明彦

吹く風や空の高さに秋を感じる過ごしやすい季節となりましたが、八戸市内のコロナウイルス感染拡大は一向に収まる気配が見られません。家庭内感染が増えていますので、本人は元気でも家族にかぜの症状がみられる場合には登校を控えるようにお願いします。学校の教育活動も感染状況に大きく左右され、他の学年と交わる活動が制限されたり、延期を決めていた行事が再延期や中止を余儀なくされたりと先行き不透明な状況が続き、児童や保護者、地域の皆様方にご心配やご迷惑をお掛けしていることを大変心苦しく思っております。

ただ、現状を憂い嘆いてばかりいても物事は良い方向に進みませんので、感染対策を十分施しながら、顔を寄せての学習が制限されている今だからこそ、個の学びの充実を図ろうと学校では一人一台端末を活用した学びに力を入れて取り組んでいるところです。宿題や長期間登校できない万一の場合に備えての練習のために、家庭に端末機を持ち帰ることも増えています。使用にあたっては、学習以外に使用しない、連続して長時間使用しないなどの約束事を指導しておりますが、中でも絶対に守って欲しいのは、『専用の充電器以外は使用しない』ことです。ゲーム機等のアダプターで代用して故障するケースが多数報告されているそうです。ご家庭でも気を付けていただければ大変助かります。

お家時間が増えています。子育てについて以前いただいた資料をご紹介します。

植物の生長に肥料が必要なことは皆さんもご承知のとおりです。肥料が不足すると、生育が悪くなり、実が小さくなってしまったり、時には枯れてしまったりすることもあります。しかし、肥料をたくさん施せばよいというわけではありません。肥料を施しすぎると、葉菜類ではえぐみが強くなり、品質が低下します。サツマイモや豆類などは、茎葉ばかりが茂って芋が太らなくなってしまいます。肥料は、たくさん与えればよいというものではなく、種類に合わせて適した量をタイミングよく与えることが大切です。

子育てにも同じことが言えるように思います。子どもの自主性を伸ばすことを最優先するあまり、子どもがしたいようにさせることは、もしかすると自主性ではなく、わがままを増長させることになっているかもしれません。子どもがしたいことをさせるよりも、子どもがしなければならないことをさせることの方が、時には必要なのではないのでしょうか。また、愛情たっぷりに育てようと、いつでも子どものそばにいて手や口を出しすぎると、親離れができなかったり、失敗を恐れすぎたりして、自分のことを自分で行う自立心に欠け、人に頼ってばかりいるように育つかもれません。子どもの心に寄り添うことは大切ですが、過保護にならないよう、適度に手をかけ、口を出し、目配りしながら、その頻度を年齢とともに徐々に少なくしていくことを心掛けたいものです。



「啐啄」(そったく)：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、  
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。